

ゆきどけ

だい
第51号
ごう



ちゅうおうさくひん
中央作品：はーとふるメッセージ2015 ポスターの部 特選
ぶ とくせん
じょうせいしょうがっこう
城西小学校6年
ねん やまむら たまみ
山村 珠未さん

わたしの日常を大切に 特集：年齢を重ねる幸せ

ふりつもったゆき、はるの到来によって融けていくように、私たち一人ひとりの心が融け合い、ぬくもりを感じることが出来るまちであってほしい。
ゆきどけのタイトルには、そんな思いがこめられています。

がいこくじん
外国人だ

としよ こ
年寄りだ、子どもだ

どうわちく
同和地区にいる

びょうき
病気がある

きょうしんじゃ
〇〇教信者だ

しょうがい
障害がある

うわさ
こんな噂がある

せいてき
性的マイノリティだ

いませんか？

しょうすうみんぞく
少数民族だ

ゆうふく ひんこん
裕福だ、貧困だ

ホームレスだ

おとこ おんな
男だ、女だ

しゅうかん
収監されていた

だいがくそつ
〇〇大学卒だ

はんざいひがいしゃ
犯罪被害者だ

ラベリングのつまらなさ。

き
決めつけて

人権はむずかしいことじゃない。



男性・女性・性的マイノリティ

もしも性別が1つだけの世界なら、どんな世界だろう？

男性と女性が対立することも、協力し合うこともない。多様性など無く、全てが単一な世界。

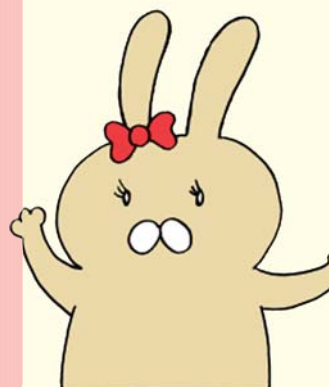
男性、女性、性的マイノリティ、それぞれ考え方が違うから、時には悩むし、衝突する。でも、様々な性は私たちに多様性という魅力を与えているのではないだろうか。

障害者

障害とは何だろうか？

話ができないこと、自分一人で歩けないこと、生活に周囲からのサポートが必要なこと？

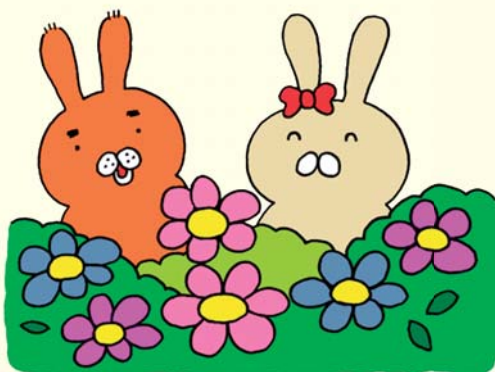
私たちは「できないこと」を卑下することがある。だが、できないことは誰にでもある。それならば、「できること」を探して、協力し合えばいいのだ。



同和問題

私たちはいつだって、自分自身を見て判断してほしいと願っている。

自分がどんな人で、何が好きで、どんなことを考えているか、他人に知ってほしい。住んでいる所や、出身地ではなくて、私自身がどんな人間かを知ってほしいのだ。住所や出身地は、その人の人柄や能力よりも大事なことだろうか。



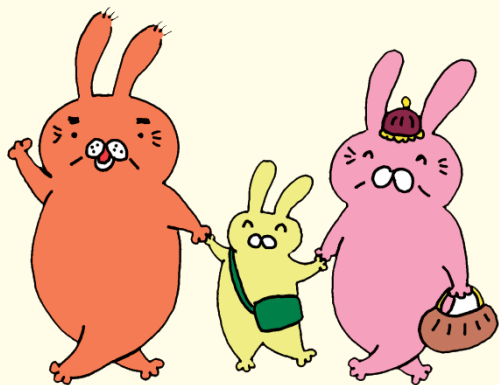
※イラストは男女共同参画センター・ウィズの公式キャラクター、ウィー(右)とズー(左)です。

まずは
「自分の人権」
を考えてみよう。

高齢者

百年前の日本人の寿命は、現代の半分くらいだった。今では80歳を突破した。その長い長い人生で培った知識や経験は、若者のそれらよりもずっと多い。高齢者は人生の先輩なのだ。

その豊かな見識から、学びたいことはないだろうか。辛いとき、悩んだとき、導いてほしいと思わないか？



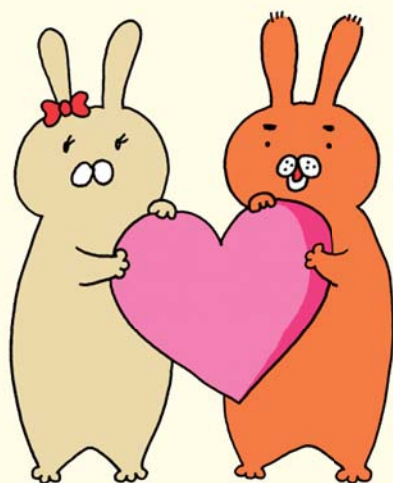
外国人

海外旅行に行くと、日本人も外国人だ。

一人で海外に行ったとき、言葉は全くわからなかったが、道に迷ったとき、物を買うとき、たくさんの人にお世話になった。空港でパスポートを拾って、現地の人を助けたこともある。

言葉も文化も違うけれど、親切に国境はあるだろうか。

東日本大震災で、たくさんの方々に世話になったじゃないか。



子ども

子どもは何も知らないんじゃない。小さくとも、力が弱くとも、大人のすることを理解している。あの人は優しい人、あの人は怖い人。あの人は私が好き、きつと嫌い。大人たちの様子を、じっと観察している。大人たちを見て、彼らは思う。

「こんな人になりたい。」あるいは「なりたくない。」と。

いろいろな人権

「いろいろな人権」とはどんな人権があるだろうか。

「傷病者」「ホームレス」「被災者」「インターネットの中」……。

他には？



みんなが幸せに生きている。い

とし うつく きんじょ い
「年をとることは美しいことよ。」 そんなことをご近所さんから言われたことがあります。

ねんれい かさ しあわ
年齢を重ねる幸せってどんなこと？

した しつもん じっさい ひこ ね ない こうれい かた しつもん こた
下の質問は、実際に彦根市内の高齢の方に質問した答えをまとめたものです。

Q

年齢を重ねて、
うれしかったことは何ですか？

囲碁が趣味です。通っている福祉施設で、週6日は仲間たちと囲碁を打っています。たくさんの人と色々会話ができて、毎日が楽しいです。

(75歳・男性)

孫が生まれ、曾孫が生まれたことです。家族が増えたことは、本当にうれしかったです。

(92歳・女性)

自分には、とても良い友人ができました。友人たちと楽しむことが何よりうれしく、年など関係なく大切なものに違いありません。

(80歳・男性)

褒められるとうれしくて、色々なことが頑張れます。美しく年を重ねられます。それが分かったことも含めて、年をとって一番うれしいことです。

(73歳・女性)

Q

してもらいたいことは、
どんなことですか？

息子や孫たちや親しい人たちと、一緒に車や電車で旅行したいです。美味しい食事ができたら最高です。

(75歳・男性)

ご近所の方たちと一緒にお茶したり、遊びに行ったりすることが楽しいです。仲のよい方がご近所におられると、幸せですし、ありがたいです。

(92歳・女性)

私も家族も、周りの人も、いつまでも健康でいてほしいです。健康でいることは何よりも大事です。

(80歳・男性)

自分がしてあげたいことの方が多く、してもらいたいことは思いつきません。人に幸せを与えるシルバーでいることが生きがいです。

(73歳・女性)

さまざまな地域活動をされてきた馬場さん(74)



住んでいる家が市の文化財ですので、掃除や建物の維持で忙しくしていましたが、様々な地域活動に参加してきました。お寺、PTA、公民館、婦人会などの活動のほかに、保育園、幼稚園で紙芝居、小学校で本の読み聞かせをさせていただきました。子どもたちに喜んでもらえたのがうれしくて、担任の先生から「子どもたちの心に残ります。」と言っていたいたときは感動しました。手仕事が好きで、洋裁、

和裁、編み物、手芸などを楽しんできましたが、今は繕い物をするボランティアも仲間としています。中には辛いこともあって、20年前に民生委員児童委員をしていたときには、対応している人の現状が心配でしたが、遠来の私を快く受け入れ、応援してくださいました。先日孫が生まれ、家族と地域活動とともに充実した日々を送っています。



Q

人生の中で大切にしてきたことは何ですか？

● 20歳でブラジルに渡り、商売を30年間しました。経験から、「信用第一」が大事です。そして、いつ、どんな人とも対立しないよう、「忍」ことです。

(75歳・男性)

● 先祖の残した田畑を、実りある場所だと思つて耕し続けてきました。今は親戚が引き継ぎました。自分の大事なものを大事に育て上げることです。

(92歳・女性)

● 私はずっと勉強(研究)し続けてきたので、勉強が大切です。人生全てが勉強なのです。

(80歳・男性)

● 苦しいことも、悔やまれることもたくさんありました。けれど、同じくらい人に助けられ、助けられました。悲観するより、努力し、「あなたが必要」と思われる実直さを大切にしてきました。

(73歳・女性)

Q

若い人たちに教えたいたことはありますか？

● 人生の中には、人と決別することもあるでしょう。でも、人と別れてしまう前に、お互いがもう少し我慢して話をしてほしいと思います。

(75歳・男性)

● 長年農業をしてきました。野菜を植えるにはタイミングがあり、専用の暦を見本とします。実をつけるには、手本を得て、自分で考えて働くことです。

(92歳・女性)

● 一生懸命学んでください。学ぶことは一生を通して大事です。学ぶこと自体が大きな財産です。

(80歳・男性)

● 苦労を苦労と思わず、改善することが幸せにつながります。自分の姿を見て、人は信用します。人にしてもらうことも、自分が人にする 것도、どちらも大切に違いありません。

(73歳・女性)



スクールガード・防犯活動の中川さん(76)

毎日早朝から、信号機のある場所でスクールガードをしています。自治会の防犯の役員を請け負ったとき、同じく役員だった方がされていて、良い活動をされていると思ったことがきっかけで始めました。毎朝するので、子どもたちの成長が感じられて喜ばしく、子どもたちから音楽会の招待状をいただくこともありました。早朝起きるので体の調子も良いです。また、自主防災組織の結成がきっかけで防犯活

動もしていますが、同じような志を持った人々と交流し、様々な出会いがありました。活動を広報などにも取り上げられたり、褒められたりすると、一層頑張ろうという気になります。退職後はボランティアなんてすることはないと思っていましたが、活動を始めて色々得られるものがありました。ボランティアはできるときにしたらいいのです。これからも続けていきたいです。

ひとびと
人々に聞いてみた。

認知症。

理解とさりげない見守りを。

認知症とは、様々な原因で脳の細胞が死んでしまったり、働きの悪くなったりしたために、様々な障害が起こり、生活する上で支障が出ている状態を指します。

そんな認知症という病気をもつ人を介護している、介護者の集まり「ほっこり」のみなさんにインタビューしました。

Q「ほっこり」はどのような集まりですか？

誰にも言えない介護の悩みが話せます。ここで聞いたことを、介護に活かすこともできます。先の見えない介護に憔悴していましたが、話すことでそれが和らいでいきました。

同じ介護をしている者同士、励ましやアドバイスが受けられ、まさしく「ほっこり」しました。

活動は今年（平成27年）で14年目。認知症の新しい情報の窓口にもなっていると思います。また、仲間内から施設などの介護に必要な情報も聞けます。



Q 家族が認知症になったとき、どうされましたか？

Aさん…義母が高齢となったことをきっかけに、ヘルパー養成講座にて学んでいました。義母の様子がいとも違い、テキストやまわりの方のアドバイスを聞き、市の機関などを教えてもらいました。

Bさん…本人が認知症とは別の病気で手術したのち、後遺症が残ったのですが、一緒に生活していると、後遺症とは異なる違和感があり、念のため

めにと病院で調べたところ、認知症と分かりました。介護保険サービス等については、近所の方が市の介護福祉課に行くように教えていただきました。

Cさん…本人の気性がだんだん激しくなり、完璧にしていた家事もできなくなりました。ただ、病院を薦めても本人が嫌がるので行けず、認知症が進行してから専門医にかかりました。だから、認知症の診断と福祉関連のサポートを受けたのは症状が進行してからになりました。

Dさん…駐車した車の場所が分からない、日常的にできることができなくなるなどの予兆がありました。プライドが邪魔するのか、本人は病院には行きたがらず、別の病気でかかった際に認知症の検査を主治医にお願いしました。介護職の親戚がいましたので、その方からデイサービスを紹介してもらい、通うようになりました。

Eさん…認知症の本人は医師などに対して家族と違った態度をとる場合がある

りました。本人の気持ちを考慮して、受診を促す必要があるかもしれません。

Q 認知症の病気をもつご本人にどう向き合い、接しておられますか？

認知症は記憶障害により、実際に行った行動自体を忘れてしまうので、本人はその事実を恐怖を感じます。誰よりも一番心配で苦しくて悲しいのは本人です。それを考慮し、脅かさないように接していました。症状は徐々に進行します。本人が好きことや、落ち着くこと、得意なことを促すような言動に気を配りました。

本人が、細かな説明ができないときは表情で分かります。昔の話などすると楽しんでいました。認知症の人が介護する人の言動をどう思うかを考えて接する、いいです。





『ほっこり／ほっこり・らぶ』

開催：原則毎月第2火曜日
13時30分～15時30分

場所：くすのきセンター2階
医療福祉推進ルーム

参加費：茶菓子代1回200円
(初回無料)

※「ほっこり・らぶ」は若年認知症をもつ
介護者の集いです。奇数月のみ開催。

※途中参加・退室可能

※問合せは彦根市医療福祉推進課まで。

TEL：0749-24-0828

FAX：0749-24-5870

Q 介護について、
周囲にしてみらいたいことは
何ですか？

まずは認知症について知ってほしいです。認知症は、もの忘れや時間や場所の感覚が薄れる、二つ以上のことが重なるとうまく処理できないなど様々な症状が現れます。これらの症状により、生活に支障をきたすことがあるため、本人の様子に気づいてください。また、昔からの友人との交流も大切です。交流がないと症状が進行する気がします。

本人を子どものように扱うことはやめてほしいです。たまに子どもに言い聞かせるような口調で接する人がいますが、症状を考慮してきちんと大人として自尊心を傷つけないように接して

ほしいです。

介護する人は、周囲のプレッシャーや介護の苦労があっても、頑張っています。理解し、認めてほしいんです。

「よく介護しているね。」と一言かけてくれると気持ちになります。本人が徘徊などする様子を見て、理解なく「放っておいてる。」ときびしい言い方をされると傷つきます。認知症の人にも介護する人も、双方をさりげなく見守ってほしいんです。

「ほっこり」のみなさん、ありがとうございました。

認知症や介護について、生の体験談や意見を聞くことができました。認知症への理解が、さらに進むことを願います。

知っておくと安心！『彦根市地域包括支援センター』

彦根市内に5ヶ所(相談窓口は7ヶ所)設置されている高齢者の相談窓口です。介護や健康のこと、高齢による心配事、必要な制度が知りたいなど、高齢者に関する相談を受け付けており、各家庭に訪問してもらうことも可能です。相談料は無料です。

※地域包括支援センターは学区ごとに担当しています。詳細は彦根市ホームページで確認するか、下記記載のセンターにお問合せください。

○彦根市ホームページ：http://www.city.hikone.shiga.jp/index.html

彦根市地域包括支援センター

ハピネス

城西・城北学区

彦根市馬場1丁目5-5

(彦根市北デイサービスセンター内)

TEL 27-6702 FAX 21-0302

金城・平田学区

彦根市平田町670 (彦根市福祉センター別館内)

TEL 21-3555 FAX 22-2841

彦根市地域包括支援センター

すばる

鳥居本学区

彦根市鳥居本町670 (デイサービスセンター鈴の音内)

TEL 21-5412 FAX 21-5464

城東・佐和山学区

彦根市後三条町350-3

(鈴木ヘルスケアサービス(株)内)

TEL 24-0494 FAX 24-0408

彦根市地域包括支援センター

きらら

城陽・若葉・河瀬・亀山学区

彦根市川瀬馬場町1015-1

(彦根市デイサービスセンターきらら内)

TEL 28-9323

FAX 28-9322

彦根市地域包括支援センター

ゆうじん

城南・高宮・旭森学区

彦根市竹ヶ鼻町80

(アロフェンテ彦根内)

TEL 21-3341

FAX 21-3306

彦根市地域包括支援センター

いなえ

稲枝東・稲枝北・稲枝西学区

彦根市田原町13-2

(彦根市南老人福祉センター内)

TEL 43-7616

FAX 43-6711

その噂話は 誰を傷つけるか

このごろ近所の方に挨拶するが、返事なく避けられてしまう。たまに遠巻きにヒソヒソ。気味が悪いし、腹が立つ。そんな私の元に、ある日、自治会長がやってきて聞きたいことがあるという。

たまに私の家に訪ねてくる、派手な見た目の少女は誰なのか。不躰な質問に不快であったが、わざわざ自治会長が出向いてきたにも理由があるだろう。内幕を告げ、話し出す。

その少女はおそらく姪のことだ。姪は学校でいじめられ、不登校となり、

そのまま非行を繰り返したため、高校を退学。仕事もせずぶらついている。

姪とは、正月休みで実家に帰った際に出会った。親戚たちは彼女を腫れ物のように扱い、誰一人声をかけようとしなかったが、私は彼女のことを知らず、声をかけた。それがきっかけで彼女と話をするようになった。いつの間にか相談を受けるようになった。私は何とか姪に立ち直ってほしかった。最近、姪も最初に出会った頃よりも落

ち着いてきて「不安だけど、復学してみた。」と言うようになった。

話し終わってから、自治会長は意味深に頷き、「実は、」と続けた。

自治会長の話に、度肝を抜かれた。

わが家に見た目の派手な少女がたびたび座って待っているの、私には若い恋人がいるに始まり、今では援助交際しているというところでもない噂が、町中に広がっているという。

ふざけるな。私は姪の相談に乗っていただけだ。なぜそんなひどいことを言えるのだ。近所で挨拶しても避けられたのはこのためか！自分だけじゃない。これは自分の姪も馬鹿にしている。彼女は立ち直ろうと悩んでいるのだ。

私の憤慨を感じ取ったのか、自治会長は落ち着くように促した。

「わたしは、あなたのことを毎日近所の方に挨拶する、礼儀正しい人だと思っている。だから噂の真相を確かめたかった。あなたとその子が心配だった。よければわたしにも協力させてもらえないか？」
実は自治会長、少年センターで指導員をしているという。

私は姪と話し合った。姪は、当初は戸

惑っていたが、やがて決意し、復学するのを相談するようになった。彼女はいづれ学校に戻るだろう。

私は思う。自分が姪にかけなければ、姪は非行少女のままだった。自治会長が自分を気にしてくれなければ、噂は更にひどい内容となり、広がっていただろうと。あの噂は自治会長が町の人々に説明したため消えていった。

今、目の前には真剣な表情で将来について話す姪と指導員がいる。消えた噂に安堵するとともに、いつの間にか「よかったな：。」とつぶやいていた。不思議と笑みがこぼれて、穏やかな気持ちだった。



あすくる彦根 (彦根市少年センター内)

彦根市尾末町1-38 (彦根市民会館)

<http://www.city.hikone.shiga.jp/edu/shounen-c>

TEL・FAX: 0749-24-9140

相談専用 TEL: 0749-26-6880

090-2049-7637

相談専用メールアドレス: soudan@mx.hikone.ed.jp



「あすくる彦根」
ってなんだろっ？

青春の真っ只中であって、自分の生き方が分からない。自分の居場所が見つけられない。今の自分を見失い、どうしていいかわからない。悩んでいる。そんな状況から立ち直ろうとする若者を支援する場所です。

自分に合った学校や仕事に再チャレンジしたり、生活を立て直したり、少年たち一人ひとりの悩み(課題)に対して、「生活改善」、「就学」、「就労」、「家庭」、「自分探し」などの支援をしています。

少年たち自身のペースで、相談しながら、自分の「生き方」を見出していく、そんな機関です。

あか 明るいあすがくることを願って

「あすくる」の
人々から

反社会的な行動をとる子どもたちや、ひきこもっている子どもたちは何を求めていると思われるのか？

わたしたちは、外見で人を判断してしまいがちですが、子どもたちが抱えている本当の苦しみは見た目だけではわかりません。

彼らはなぜそのような状態になるのでしょうか。大人社会のひずみ、周囲の理解のなさ、家庭の問題などにより、子どもたちが居場所を失い、トラブルを抱えていることが多いのです。

思春期という多感な時期に、「あすくる」にきている少年たちは、自分自身の内面的な悩みを抱え、また周囲の環境などの影響を受け、自分ではどうにもならないことに深く傷ついたり、悩んだりしながら、自分の未来を切り拓こうとしています。「あすくる」では、学習や様々な体験活動を通して、子どもの個性、特性、本音をくみ取り、少年たち一人ひとりが

自分の道を切り拓いていけるように支援し、見守っています。

社会で生きていく上で必要な基礎学力を身につけ、豊かな心を育み、自立した大人として社会に貢献してほしい。そして、なにより幸せに暮らしてほしい。「あすくる」ではそう願い、少年たちに接しています。

基礎学力の定着と、安心・安全な家庭環境・社会環境は、子どもたちの成長には不可欠なものです。そして、その子どもたちの育ちの場を作り出していくことこそ、私たち大人の大きな責務でもあります。

子どもたちの健やかな成長のために、私にもできることを、今一度考え取り組んでいきたいものです。





わたし 私たちの生活は せいかつ たくさんの人々に ひとびと ささ 支えられている。



いつものティータイム

コーヒー：ブラジル産、グアテマラ産、コロンビア産
ハワイ産（アメリカ）、その他
紅茶：インド産、スリランカ産、
その他
クッキー：社会福祉法人の作業所で作られたもの。



つか いつも使う化粧品など

石けん…ドイツ製
マニキュア…フランス製
ファンデーション、アイシャドー…カナダ製
ポーチ…社会福祉法人の作業所で作られたもの。
※他にもたくさんの外国製化粧品がある。



き お気に入りのキッチン用品

ふきん…露店で買ったもの。
※これを作った人は、外国人で、その方は
現在、精神的な病気と闘っている。



つか よく使うスパイス

黒コショウ、シナモン…マレーシア産
白コショウ…インドネシア産
ローズマリー…アルバニア産
タイム…モロッコ産
ローレル…トルコ産





さくばん ゆうしょく 昨晚の夕食

こめ アサリ：日本産

キムチ：韓国産

ラム肉：ニュージーランド産

パプリカ：オランダ産



しゅうまつ ぜいたく 週末の贅沢

ワイン・・・チリ産、チーズ・・・スイス産

サーモン・・・ノルウェー産

オリーブ・・・スペイン産



お お つく て かんしゃ 多くの作り手に感謝すること

私たちの身の周りは、自国で作られた製品の他に、たくさんの外国製品であふれかえっている。外国製品をよくないように思う人たちもいるだろうが、現在の日本社会で、外国製品の恩恵を受けない人はいないだろう。食べ物や日用品を、誰とも争うことなく、すぐに、良いものを手にすることができる環境で、私たちは暮らしている。特定の国々や人種を非難したり、「外国人だから関わりたくない。」と思ったりすることは、多くの外国の人たちから恩恵を受けている事実を無視してはいないだろうか。

「お気に入りのキッチン用品」のふきんを見てほしい。この製作者は、精神的な病気と闘いながらこれを作った。世間には障害のある人や、病気と闘っている人がいるが、中にはこのような製品や食べ物を作り、人々の暮らしを支えている人もいます。こうやって見ると、彼らは「障害者」「病人」ではなく、ものづくりのプロだ。

自分の生活を振り返ってみよう。たくさんの人々が自分の生活を支えていることに気づき、その恩恵に感謝したとき、幸福を感じないだろうか。



なか み タンスの中身

ふだん着、装飾品など・・・中国製
スーツ・・・ベトナム製



だい す 大好きなチョコレート

カカオ生産地：

ガーナ、カメルーン、
ベネズエラ、その他

こ ま にちようひん ないと困る日用品

トイレットペーパー

※多くの物は再生紙が原料

だが、紙の原料のパルプの元は木材である。日本の木材も使われているが、アメリカ、カナダ、フィジー、オーストラリア、ベトナム、チリなどからも輸入している。





アジサイは、小さな花の集まりだと思っていた。
しかし、小さな花の花びらは「花びら」ではない。
本当は萼なのだという。
気になってアジサイについて調べた。

私はアジサイのことを知らなかった。知ったつもりでいたのだ。

雨季になれば、どこにでも咲いているアジサイ。
そのどこにでもある花に、複雑な生態があることを知らずにいた。

知ったつもりになっていないか。

近所や職場の人々や、友人や家族のことを。

世論や、生活や、人権のことを。

「よく知っている。」と思いながら、言いながら。

私にとってのアジサイのように。

知ったつもりになっていないか。



アジサイ…6月から7月にかけて咲く花。様々な種類があり、土壌の酸性度により、花の色が変わるものもある。小さな花の集まりのようであるが、これは「装飾花」であり生殖能力はない。一般的に「花びら」と思われているものは萼である。調べれば調べるほど奥深い植物である。写真は「ホンアジサイ（左下）」「ヤマアジサイ（左上）」「ツルアジサイ（右下）」。



ひとりで悩んで いませんか？

つらいとき、苦しいとき、悲しいとき。

誰かに傷つけられたり、自分に悩んだり。

ひとりで考えるより、相談してみませんか？

心のサポートのお手伝いをします。

人権全般に関する相談

大津地方法務局

☎0570-003-110

(最寄の相談先につながります)

児童虐待の発見

児童相談所共通ダイヤル

☎189

(24時間対応)

子どものいじめなど

子どもの人権110番
(大津地方法務局内)

☎0120-007-110

(全国共通番号)

ひきこもり等 子ども・若者 (思春期・青年期)に関する相談

滋賀県立精神保健福祉センター

(ひきこもり支援センター)

☎077-569-4060 (初回受付)

女性に対する暴力など

女性の人権ホットライン
(大津地方法務局内)

☎0570-070-810

(全国共通番号)

法律が関係する相談

日本司法支援センター 法テラス

法的トラブル一般：☎0570-078374

犯罪被害者支援：☎0570-079714

(全国共通番号)

※上記の相談窓口は、彦根市が行っている相談窓口ではありません。

※相談によっては24時間対応していない場合や、相談日時が決まっている場合があります。

はーとふるメッセージ2015

またあそぼ
うれしいことば
かけようね

金城小学校 1年 村上 天翔さん



佐和山小学校 5年 福原 叶夢さん

やさしきで
だれかを笑顔に
できるんだ!

金城小学校 4年 林 祐樹さん



高宮小学校 2年 北川 虹瀬さん

だいじょうぶ
ふみだせいっぱ
ゆうきだせ

高宮小学校 5年 福永 拓飛さん

なりたいな
心の痛みの
わかる人

彦根中学校 1年 塩川 温子さん

「どうしましたか?」
さり気なく
声かけできる
地域の輪

古沢町 野洲 令子さん

なやみごと
勇気をだして
はなそうよ

南中学校 2年 東條 峻也さん



稲枝西小学校 1年 上田 紅空さん

はーとふるメッセージとは

毎年7月～12月の間に、彦根市に在住、在学、在勤されている方を対象に、人権をテーマにした作品を募集しています。作文部門、標語部門、ポスター部門の3部門があり、毎年多くの応募をいただいています。

受賞した作品は、パネルとして貸し出しも行っています。

なお、冊子に掲載しているポスターや標語の学校名と学年は、応募当時のものです。

この冊子は15,000部印刷し、一部あたりの単価は15.55円です。

ただし、原稿作成等にかかる職員の人件費は含んでいません。

発行：2016年3月 彦根市人権政策課 TEL：30-6115 FAX：24-8577